

ナス（ハウス抑制）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
作 型												
主な作業					台 木 播 種	穂 木 播 種	接 ぎ 木	定 植	収 穫	保 温 開 始		

————— 技 術 体 系 —————

1 作型の特徴

春夏ウリ類等との組合せで施設を高度利用する作型である。特別の資材費や管理費が必要でないことから所得率も比較的高い。作の前半はサイドビニルを開放し、気温が低下する後半はサイドビニルを張り、保温を行う。

2 栽培条件

促成栽培に準ずる。

3 適応地域

平坦地域

4 施設装備

- (1) 連棟ハウス、単棟ハウス
- (2) 灌水施設

5 経営目標

- (1) 収量 6.5 t / 10 a
- (2) 投下労働時間 710時間 / 10 a
- (3) 所得率 40%
- (4) 経営規模 20 a
(家族労働時間2人の場合)

————— 栽 培 技 術 —————

1 品種と特性

穂木「筑陽」

台木「トルバム・ビガー」

ナス促成栽培参照

2 育苗

- (1) 10 a 当たり種子量

筑陽 40ml

トルバム・ビガー（ハイダッシュ使用）10ml

- (2) 播種

トルバム・ビガーは穂木の15～20日前に播種する。穂木、台木それぞれ育苗箱10個用意し、1箱10～12条、1条約40粒を播種し、5～6mmの覆土を行う。

- (3) 穂木仮植

本葉1～1.5枚位で10cm間隔に移植する。10 a 当たり30㎡の面積が必要となる。

- (4) 台木鉢上げ

本葉2枚ぐらいで径15cmのポリポットに鉢上げする。

- (5) 接ぎ木

穂木播種後30～35日に割接ぎで行う。

3 圃場の管理

- (1) 施肥

施肥量 (kg / 10 a)

	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	備 考
基肥	20	30	15	前作の肥料残存量により減らす。
追肥	20	10	20	
全量	40	40	35	

追肥は定植後1ヶ月後に1回、その後15日ごとに行う。

(2) 定植

8月上旬に開花直前の苗を定植する。接ぎ木後約30日で定植する。畦が乾いているときは、定植前に植穴灌水を行う。

定植後は充分灌水して速やかな活着を図り、高温障害防止のため株元に敷きワラをする。また、株が動かないように、直ちに仮支柱を立てて保持する。

(3) 栽植様式

畦幅 1.7 ~ 1.8 m、株間 50 cm (10 a 当たり 1,200 株)

(4) 整枝

主枝と1番花の下の側枝2本を残して3本仕立てとする。

(5) 交配

着果促進のため、トマトトーン 50 ~ 100 倍液を開花時の花に噴霧処理する。

草勢が強い時は濃く、弱い時は薄めに処理する。

芯以外にかからないように、2度処理もしないよう注意。

(6) 保温

ハウス内が13℃以下に低下したらサイドビニルを張り、保温する。

4 収穫

収穫期間は9月上~12月である。加温施設の導入により収穫期間を延長することも可能である。青果物出荷規格に基づき収穫する。

5 台風対策

台風接近時には、支柱から枝をはずし株を軽く横倒しにし、防風ネットで茎葉を押さえ、台風通過を待つ。通過後は株を起こし、薄い殺菌剤薬液で株に付着した土壌等を洗い流す。そして、液肥を500倍程度に希釈して散布し、草勢の回復を図る。